



房総国際芸術祭

アート×ミックス 2027

実施計画

令和8年1月

房総国際芸術祭実行委員会

目次

1	計画の策定に当たって	2
2	開催概要	3
	(1) 名称・会期・会場	
	(2) 体制	
	(3) コンセプト	
	(4) ロゴマーク	
	(5) 作品鑑賞パスポート	
3	コンテンツ	6
	(1) アート作品展開	
	(2) 音楽・ライブパフォーマンス	
	(3) 食	
4	広報	15
	(1) 方針	
	(2) 具体施策	
5	サポーター	16
6	交通・運営	17
	(1) 交通	
	(2) 運営	
7	各種連携	18
	(1) 民間連携	
	(2) 学校連携	
	(3) 地域連携	
	(4) その他	
8	成果指標 (KPI)	18
9	予算	19

2 開催概要

(1) 名称・会期・会場

- 事業名称 房総国際芸術祭 アート×ミックス^{ニエゼロニエナナ}2027
(英題: Boso Triennale 2027)
- 会期 令和9年(2027年)3月6日(土)～5月30日(日)
※火・水曜日定休(GWは除く)、64日間
- 会場 千葉県市原市、木更津市、大多喜町の各地

(2) 体制

- 主催 房総国際芸術祭実行委員会(千葉県、市原市、木更津市、大多喜町)

【実行委員会の構成(敬称略)】

- 名誉実行委員長 熊谷 俊人(千葉県知事)
- 実行委員長 小出 譲治(市原市長)
- 副実行委員長 渡辺 芳邦(木更津市長)
- 平林 昇(大多喜町長)
- 監査役 山内 一信(市原商工会議所会頭)
- 池田 庸(木更津商工会議所会頭)

○オブザーバー(五十音順)

イオンモール株式会社 イオンモール木更津	いすみ鉄道株式会社
株式会社イトーヨーカ堂 アリオ市原店	一般社団法人大多喜町観光協会
大多喜町商工会	一般社団法人木更津市観光協会
木更津市富来田商工会	君津信用組合
株式会社 KURKKU FIELDS	株式会社京葉銀行
小湊鐵道株式会社	株式会社千葉銀行
公益社団法人千葉県観光物産協会	公益財団法人千葉県文化振興財団
株式会社千葉興業銀行	株式会社千葉ステーションビル
千葉テレビ放送株式会社	株式会社千葉日報社
成田国際空港株式会社	日東交通株式会社
日本放送協会千葉放送局	東日本高速道路株式会社関東支社 市原管理事務所
東日本高速道路株式会社関東支社 東京湾アクアライン管理事務所	東日本旅客鉄道株式会社千葉支社
株式会社バイエフエム	養老溪谷観光協会
株式会社良品計画 MUJI BASE OIKAWA	

- 総合プロデューサー 小林 武史
- 総合ディレクター 北川 フラム
- アートディレクター 豊福 亮
- デザインディレクター 長嶋 りかこ

(3) コンセプト

五感全開、旅する房総 -みんなの美術工場^{こうば}-

房総半島まるごとの千葉県は、鎌倉殿が勢力を拡大し、のちに各地で城下町が形成された関東の歴史的拠点であり、古くは国分寺から遡る古墳文化の華やかな地であり、2500万年前にはユーラシア大陸から離れていく日本列島の牽引の大地でした。近代以降、この豊かさを育む里山や歴史的な風景とともに、日本有数の工業地帯、および首都圏の大切な住宅地として発展し、今や日本列島の縮図ともいえる特徴ある地域として存在感をもってきました。

本芸術祭では、2市1町の各地にアートと音楽・ライブパフォーマンスを展開し、来場者は、半島を縦断する鉄道、車、自転車や徒歩などで地域を旅します。太平洋を臨むフロンティアの地に、世界各地から作家が集い、世界へと開かれた国際的な芸術祭の拠点として歩み始めます。ここでは「みんなの美術工場」の構想のもと、ものづくりに注目し、作家の滞在制作やシンポジウム、ワークショップを開催します。さらに、木更津のクルックフィールズを立ち上げた小林武史が、この地域の特徴を活かした音楽・ライブパフォーマンスを手掛けます。また各エリアの食施設と連携して地産地消メニューや新しい食体験を考案し、地域との交流も創出します。

多様な文化を育んできた房総の地で、美術・文化を題材とした地域づくりを始めるべく、千葉県・市原市・木更津市・大多喜町が本芸術祭を開催します。地域の産業・文化・美術・音楽を、海外から学びつつも、地域の力のなかで育てていこうとするものです。

(4) ロゴ

青と赤という二極の色味が滲む景色は、「内」と「外」、「人工」と「自然」、「効率」と「非効率」といった対極する要素がミックスし、社会に“あわい”を描くことを隠喩しています。

太平洋を望む房総半島が、交流の玄関口として開口部の一助となる国際的な芸術祭を目指していることから、房総半島の陸地から見た太平洋の海と空の境界が滲む風景を思わせる、整然としたグラデーションをメインビジュアルに据えました。一方、おぼつかない手つきで色を混ぜるかのように描かれた円は、造作、対話、交流といった人為によって生まれる“あわい”を表しています。

ロゴには、日本語に丸ゴシック系統の書体、英語に角ゴシック系統のコーディング書体を使用しています。日本語は道路標識など日本の物理的な公共空間で多用されてきた丸ゴシック系統の書体であり、英語はコーディングフォントとしてシステム構築において用いられる、仮想公共空間の裏方的角ゴシック書体です。丸と角、表と裏、物理と仮想、という二つの対極的な書体を日英併記で組み合わせひとつのロゴとすることで、コントラストと“あわい”を宿しています。

※あわい（間）…向かい合うもののあいだ。また、二つのものの関係。

■ ロゴ



(5) 作品鑑賞パスポート

【作品鑑賞パスポートの価格】

区分	前売 R9.3.5 まで	会期中 R9.3.6~5.30
大人 (19 歳以上)	3,000 円	3,500 円
中人 (16~18 歳)	1,000 円	1,500 円
小人 (15 歳以下)	無料	

※区分は購入時点の年齢による

※個別鑑賞券は別途設定

※一部別途料金が必要となる作品あり

※障がい者手帳をお持ちの方は無料（介添が必要な場合は同行者 1 名無料）

【大口販売】

区分	価格	備考
大人 20 冊以上	1 冊あたり 2,700 円（会期前） 3,200 円（会期中）	—
大人 100 冊以上	1 冊あたり 2,700 円（会期前） 3,200 円（会期中）	寄附・協賛 5 万円以上の区 分の特典に準じて社名掲載 ※協賛返礼品は無し

【販売開始時期】

令和 8 年夏頃

※企画発表会の開催に合わせて販売を開始

※販売に先行して、2 市 1 町のふるさと納税返礼品としても登録

※ただし、返礼品の発送は令和 9 年 1 月以降

【販売方法】

・実行委員会で設置する芸術祭の案内所等での販売

・各種プレイガイドでのオンライン販売

※その他、商業施設における販売など、効果的な販売網を整備

3 コンテンツ

(1) アート作品展開

ア 主な作品展開拠点

各地域の特色を生かした企画・作品展開を検討しています。なお、他の拠点についても、引き続き検討を行います。

①市原市 (五十音順)

■ 市原湖畔美術館



【特色】

千葉県一の貯水面積を誇る高滝湖に臨む美術館であり、現代アートを中心とした企画展、地域・子どもに開かれたワークショップ、広場を利用したマルシェやピクニックなど多彩なプログラムを展開しています。会期中に、芸術祭と連携した企画展を開催します。

■ 市原歴史博物館



【特色】

旧石器時代から近現代まで扱い、展示室には国産最古の有銘鉄剣として名高い稲荷台1号墳出土の「王賜」銘鉄剣をはじめ、公開が望まれてきた「いちはらの至宝」が集結しています。

■ 内田未来楽校



【特色】

100年近い歴史を持つ木造建築を活用し、「NPO法人報徳の会・内田未来楽校」によって、里山ハイキングや朝市・マルシェ等、さまざまな取組が行われています。

■ 上総牛久駅周辺



【特色】

市原市のほぼ中心に位置し、中部～南部の商業の中心地として発展しました。「牛久り・デザインプロジェクト」やアーティスト・イン・レジデンスなどアーティストと地域が連携する取組を行ってきました。

■ 旧里見小学校



【特色】

大正2(1913)年に開校し、平成25(2013)年に閉校した小学校です。地名でもある里見の名は、房総を拠点とした戦国大名の里見氏に由来しています。第1回のいちほらアート×ミックスから作品展示会場となっており、主要拠点の1つとなっています。

■ 旧平三小学校



【特色】

明治9(1876)年に開校し、平成28(2016)年に閉校した小学校です。地域住民で構成する「集い広場へいさん」のメンバーが主体となり、毎月里山市などを開催される等、地域コミュニティ拠点として人々が集まる場所になっています。

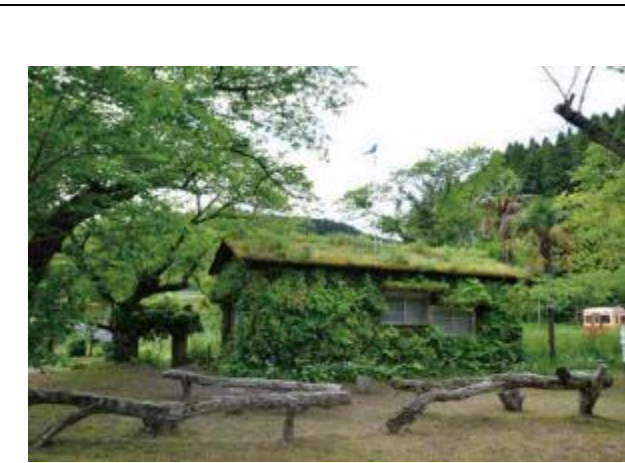
■ 五井駅周辺



【特色】

五井駅は、小湊鉄道の始発駅で、JR内房線との乗換駅にもなっており、市南部への玄関口となっています。古くは東京湾や養老川の水運と、江戸・久留里への交通の要衝として栄えた歴史を持ちます。

■ 月崎・田淵



【特色】

小湊鉄道や車道を開通させるために作られた手掘りトンネル・切通しが数多く残っており、養老川周辺の山々や深い谷からは自然の雄大さを感じることができます。田淵の地層が、約77万年前に起きた地磁気逆転現象の跡を鮮明に残していることから、地質年代境界の国際基準地に認められ、その地質年代が「チバニアン」と名付けられました。

■ 月出工舎



【特色】

平成19(2007)年に閉校した小学校です。平成26(2014)年に大きく生まれ変わり、「みんなでつくるがっこう 月出工舎」をコンセプトに「遊・学・匠・食」の4つのプロジェクトを中長期的に展開し、分野や世代を超えた取組の数々が根付いて来ています。

■ 八幡宿駅周辺



【特色】

市原市を走るＪＲ内房線の最北駅です。周辺には、1300年以上の歴史を持つ飯香岡八幡宮が鎮座し、古くは宿場町として栄えてきた歴史を持ちます。

■ その他（駅）



【特色】

市内を南北縦断する小湊鉄道は、大正14(1925)年に開業し、100年以上の歴史を持っています。全線18駅のほとんどが開業当時の駅舎を使用しており、国の登録有形文化財に選ばれた駅舎も多数あります。

②木更津市 (五十音順)

■ KURKKU FIELDS



【特色】

約9万坪(30ha)の広大な敷地をフィールドに、「農業」「食」「アート」、そして「自然」の循環が体験できるサステナブルファーム&パークです。農業と共にある食、自然と一体となったアートなど、さまざまな循環を感じることができます。

■ 富来田公民館 (令和8年4月1日より、「富来田地域交流センター」に移行)



【特色】

自然豊かな里山に位置する富来田地区の公民館です。富来田の地名は馬來田村と富岡村が合併し、「富来田町」が誕生したことに由来しています。

■ JR久留里線 馬來田駅



【特色】

木更津駅を発着するJR久留里線の停車駅の1つです。地域住民で組織する「富来田地区まちづくり協議会」が清掃活動を行うなど地域に愛される存在となっています。

※その他、海岸部での作品展開を検討中

③大多喜町 (五十音順)

■ 城下町通り



【特色】

徳川四天王の1人、本多忠勝が整備し栄えた大多喜城の城下町のメイン通りであり、国指定文化財を含む古い建物が並んでいます。

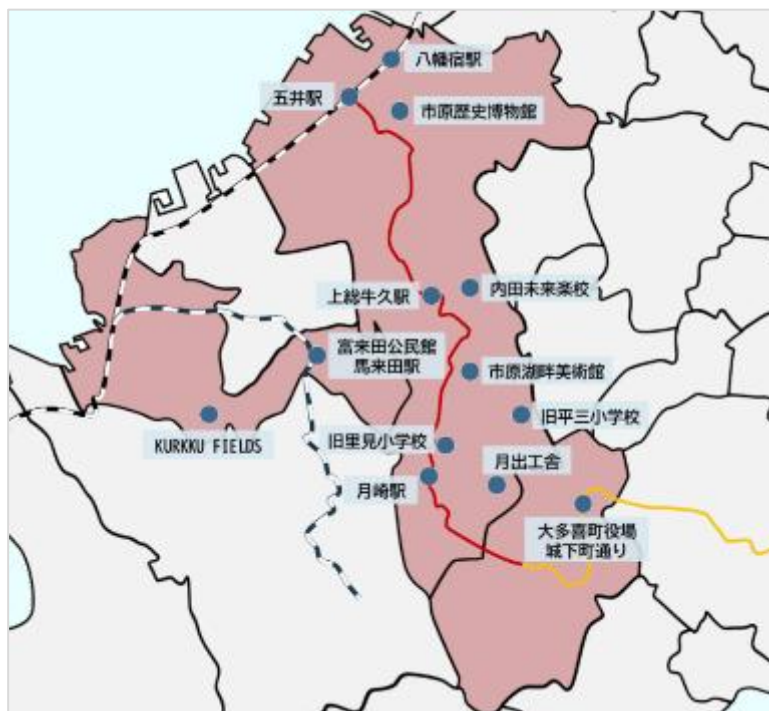
■ 町役場 庁舎



【特色】

中庁舎は、昭和 34(1959)年に建築家・今井兼次の設計により建設されました。国登録有形文化財に指定されており、平成 25 (2013) 年には、ユネスコ文化遺産保全のためのアジア太平洋遺産賞を受賞しています。

イ 主な作品展開拠点位置図



ウ 作家一覧（令和8年1月29日時点）

■ 新作・新展開作品（海外10組、国内11組）

内房総アートフェス会期後に制作された作品を含む

海外（出身国／活動国）	国内
イ・ビョンチャン（韓国）	小谷元彦
カールステン・ニコライ（ドイツ）	加藤みいさ
カロリーナ・カイセド（コロンビア）	小瀬村真美
コンゴ・アストロノーツ（コンゴ）	田中誠人
シモン・ベガ（エルサルバドル）	千田泰広
ジョンペット・クスウィダナント（インドネシア）	原田郁
シルバ・グプタ（インド）	BankART1929
ニール・メンドーザ（イギリス／アメリカ）	満尾洋之
ベアトリス・コルテス（エルサルバドル／アメリカ）	八木秀人
ワン・チュンクン（台湾）	山田泉美
	横谷奈歩

■ 常設作品／クルックフィールズ所蔵作品（海外6組、国内27組）

海外 （出身国／活動国）	国内		
オラファー・エリアソン （アイスランド/デンマーク）	浅井裕介	CLIP	田中奈穂子
カミーユ・アンロ （フランス）	秋廣誠	栗山齊	チョウハシトオル
カルロス・ガライコア （キューバ）	EAT & ART TARO	栗田宏武	富安由真
ジョアン・カポーテ （キューバ）	岩間賢	クワクポリョウタ	豊福亮
ソカリ・ドグラス・カンブ （ナイジェリア/イギリス）	小沢敦志	KOSUGE1-16	中根唯
ヘラルド・バルガス （メキシコ）	岡田杏里	塩月洋生	藤本壮介
	角文平	鈴木ヒラク	増田セバスチャン
	木村崇人	鈴木敦夫	森靖
	草間彌生	竹村京	柳建太郎

※頭文字の五十音順

※調整中のため、追加があった際は段階的に発表予定

エ 作品公募

地域の歴史や自然などの豊かな資源の魅力を生かし、学校や空き家、公民館、駅、屋外などを想定した、国際的な発信力を持つアート・パフォーマンス作品及びプロジェクトの提案を募集します。

なお、総合ディレクターによる候補地のガイド・レクチャー付きの現地見学会を開催します。

募集期間：令和8年3月1日（日）～3月31日（火）午後5時必着 持込不可

審査結果：令和8年6～7月頃 結果発表

現地見学会：令和8年2月21日（土）

※その他応募方法等の詳細はホームページにて公開します。

オ スケジュール

令和8(2026)年												令和9(2027)年					
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	
								企画 発表会						芸術祭 開催			
総合ディレクターによる作家選定																	
	公募 期間			● 第1次 審査結果		● 第2次 審査結果											

(2) 音楽・ライブパフォーマンス

小林武史総合プロデューサーによる音楽・ライブパフォーマンスを2市1町において、それぞれ実施します。

ア 公演会場（予定）



市原市民会館（市原市）



KURKKU FIELDS（木更津市）



MUJI BASE OIKAWA (大多喜町)

- ※その他、作品展開拠点等での公演も検討
- ※出演者の調整状況より変更となる可能性あり

イ スケジュール

令和8(2026)年												令和9(2027)年				
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
公演会場検討										企画発表		芸術祭 開催				
出演者・開催日程調整										チケット 販売開始						
					チケット価格・販売方法検討											

※公演内容の発表・チケット販売開始時期については、会場ごとに異なる

(3) 食

地域の産品や特徴を生かした「食」を提供し、地域の魅力発信につなげていきます。また、「食」を通じ「農」についての学びや触れることのできるプログラムを検討します。

食のアーティスト、EAT&ART TAROの作品兼食堂である「SATOMI HIROBA」(旧里見小学校内)で、房総の食材を使った食事の提供を検討していきます。



4 広報

(1) 方針

芸術祭の認知度を向上させるため、ホームページ（以下「HP」という。）・ソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下「SNS」という。）、テレビ・ラジオ・新聞等（以下「メディア」という。）、プロモーションイベント、民間との連携等の広報施策を展開します。

ターゲットに合わせた情報を確実に届けることにより、会期前から期待感を高め、来場者数の増加と地域の盛り上がりを創出します。

(2) 具体施策

ア ログマークの活用

芸術祭の統一的なブランドイメージを構築させるため、ログマークを各種媒体で活用します。

イ HP・SNSの活用

HPは誰もが分かりやすく、操作しやすいページを構築し、会期前から芸術祭への期待感を高めるためのコンテンツを用意します。また、インバウンド対応として、英語に加えて簡体字・繁体字への翻訳機能を持たせます。

SNSは媒体の特性を生かしつつ、十分なリスク対策も講じた上で、効果的な発信を行います。ターゲットの属性に応じたインフルエンサーの活用により情報を届けるとともに、ハッシュタグキャンペーン等による一般投稿の促進を図ります。

ウ メディアの活用

本芸術祭の開催を全国的に広く認知してもらうため、波及効果の高いテレビキー局へのパブリシティ活動を実施します。また、地元のメディアとは密に連携し、地域に密着した情報を発信します。

エ 県・2市1町と連携したプロモーション

各自治体の持つ既存の広報媒体を積極的に活用し、情報を発信します。

また、各自治体が主催で開催する地域のお祭りなど各種イベントにおいて連携したプロモーション活動を行います。

オ 空港や交通事業者、サービスエリア・パーキングエリア・商業施設・商店等と連携したプロモーション

空港、交通事業者や商業施設等と連携して、車内広告やポスター・懸垂幕の掲出、デジタルサイネージによる広告などを実施します。

カ 海外へのプロモーション

アートに関心が高く、他の芸術祭においても来場者の多い中国・台湾等へのプロモーションを実施します。また、各自治体の姉妹都市などの国際交流のつながりを活用した情報発信を行います。

キ 企画発表会・プレスツアー

会期の半年前頃に企画発表会を開催し、拠点、参加作家、作品内容のほか、音楽・ライブパフォーマンス、イベント、食、鑑賞券などの情報を発表します。

また、メディアに向けたプレスツアーを開催します。

ク プレイベント

令和8年3月に、本祭への機運を高めるため、新作アート作品の先行公開や、2市1町でそれぞれおにぎりをひときわ美味しく食べることを目的としたイベント「おにぎりのための運動会」を実施します。

5 サポーター

芸術祭を共につくり上げるサポーターは、作品制作補助や会場整備、来場者へのおもてなし等を担い、作家と地域、作品と来場者をつなぐ芸術祭の中心的な存在です。

平成26(2014)年の第1回いちほらアート×ミックス以降、継続して地域や芸術祭を支えている地域住民の方々や「菜の花プレーヤーズ」、地域の市民活動団体等と連携して、芸術祭を通じた地域づくりを進め、芸術祭の運営や地域との協働を支える「房総国際芸術祭サポーター」を立ち上げます。

また、学生・社会人・外国人等、多様な立場や世代の人々に参加を促すため、積極的に地域コミュニティや関係企業等へ働きかけるとともに、県のボランティアマッチングサイトを活用し、若者や地域貢献意向を持つ方に向けた情報発信を行います。

併せて、参加者が地域や芸術祭への理解を深め、主体的に関われるよう、芸術祭運営に向けた勉強会や、おもてなしに関する研修等を実施します。

これらの取組を通じて、地域住民との交流や地域行事参加を促進し、地域に根差した活動につなげていきます。

6 交通・運営

(1) 交通

ア 自家用車・レンタカー

車で芸術祭を巡る際の参考となるよう、複数の日帰りルートや1泊2日ルート等モデルルートを公開します。

イ 公共交通・二次交通

駅やバス停から各会場への二次交通については、地域の実情や需要に合わせた持続可能な運行を目指し、運行形態（バス・タクシー等）や利用料金を決定していきます。

また、既存の鉄道やバス等の公共交通機関と組み合わせ、利用しやすいダイヤを設定する等、来場者にとって利便性の高い二次交通を提供します。

さらに、自転車で巡る方も想定しモデルルートを公開する等、自転車を活用し地域内の周遊性を高めていきます。

ウ オフィシャルツアー

地域に初めて来訪する方や芸術祭に初めて参加する方でも、作品を効率良く鑑賞できることに加え、ガイドによる作品解説を通じて地域の歴史や文化を知ることのできる、単なる交通手段ではない「体験」としての芸術鑑賞ツアーを実施します。

また、自転車で作品を巡るツアーを実施します。

(2) 運営

ア 会場運営（警備含む）

アート作品展示期間中、各エリアを訪れた来場者が安全・快適に芸術祭を楽しめるよう、円滑な会場運営を行います。また、サポーターの方々にも会場運営に主体的に関わっていただけるような仕組みを構築し、住民参加の機運を高めるとともに、来場者へのおもてなしを提供します。

音楽・ライブパフォーマンスイベント開催時には、多くの来場者が予想されるため、安全管理を徹底します。

イ インバウンド対応

海外からの来場者の受入れに向けて、会場での案内看板、受付でのスムーズな案内等、体制構築に取り組んでいきます。

7 各種連携

(1) 民間連携

地域の民間企業、団体を中心に、官民で連携した取組を実施します。特に、実行委員会にオブザーバーとして参加していただいている民間企業・団体については、広報・交通・パスポート販売の取扱い等、各社の強みを生かした協力をお願いし、芸術祭を契機として共に地域経済を活性化できる体制を構築していきます。

そのほか、地域内での消費が高まるよう、近隣の商業施設や飲食店、宿泊施設等と連携し、地域の特産品の紹介や販売できる機会を創出します。また、オフィシャルグッズについては、地域の経済団体等と連携したグッズ展開を行い、観光消費額の拡大に向け、来場者が手に取りたくなる魅力あるグッズや効果的な販売方法を検討します。

(2) 学校連携

2市1町の教育委員会、小学校や中学校等と連携し、子どもたちの豊かな心を育む情操教育につなげていくため、本芸術祭を校外学習等での訪問先の1つとして選択できるよう受入体制を整えるほか、ワークショップ等で子どもたちが作家と直接触れ合う機会を創出します。

(3) 地域連携

地域で積極的に活動している市民活動団体と連携し、来場者へのおもてなし活動を展開します。また、団体が実施している地産の野菜・果物やジビエ加工品の販売等、地域の活性化に資する取組を促進します。

(4) その他

各自治体が来場者に対して芸術祭以外の観光地や特産品等の魅力を発信できる機会を提供する等、各自治体の実施する観光振興施策と連携します。

また、他の芸術祭と積極的に連携を図り、プロモーション効果を高めます。

8 成果指標（KPI）

芸術祭の開催に当たり、以下の指標を設定し事業を実施します。

- ・経済波及効果（県内） 18億円
- ・延べ来場者数 16万人
- ・サポーター延べ参加者数 1,000人

9 予算

(収入)

(千円)

科目	R 7年度	R 8年度	R 9年度	計
県負担金	45,000	45,000	0	90,000
市町負担金	41,000	120,000	52,000	213,000
市原市	30,000	80,000	40,000	150,000
木更津市	10,000	35,000	10,000	55,000
大多喜町	1,000	5,000	2,000	8,000
国補助金等	0	50,000	10,000	60,000
協賛	30,000	90,000	10,000	130,000
事業収入	0	44,000	41,000	85,000
計	116,000	349,000	113,000	578,000

(支出)

(千円)

科目	R 7年度	R 8年度	R 9年度	計
プロデューサー・ ディレクター費	10,000	20,000	10,000	40,000
コンテンツ制作費	66,000	244,000	40,000	350,000
広報宣伝費	25,000	32,000	13,000	70,000
イベント運営費	7,000	36,000	41,000	84,000
施設・拠点整備費	0	3,000	2,000	5,000
サポーター活動費	1,000	1,000	1,000	3,000
事務局運営費	5,000	10,000	5,000	20,000
予備費	2,000	3,000	1,000	6,000
計	116,000	349,000	113,000	578,000

※令和7年7月28日 第1回総会にて議決

房総国際芸術祭 アート×ミックス 2027
実施計画

(作成)

房総国際芸術祭実行委員会

(写真撮影)

中村脩

(写真提供)

市原市・木更津市・大多喜町

[実行委員会事務局]

〒292-8501

木更津市富士見一丁目2番1号

Tel : 0438-38-6563

Fax : 0438-23-0075

Mail : info@boso-artmix.com